母が倒れたのはその翌日３月９日でした。

早朝から「今日は燃えないごみの日だ。」とて、私の妻とゴミ出しをしたりして元気でした。その日友人と電話で話し中に倒れました。「うちの息子は間違っていない！」と話しながら気を失ったことがあとで分かりました。その友人の機転ですぐに救急車に乗ることが出来ましたが、救急車に乗って付き添っているあいだじゅう私は自分の言動が、倒れた原因ではないかと考えました。くも膜下出血ということですぐに手術でした。

あとでお医者さんは、くも膜下出血の原因はそんなものではないから気に病まなくていいですよと言ってくださいましたが心残りは消えません。

難しい手術は成功して命をとりとめ、三日後にはいったん意識も戻りました。術後の経過は思わしくなく再手術となりましたが、お医者さんの懸命の治療で母は一命を取りとめ三たびの全身麻酔手術を乗り越えて、１ヶ月後母は再び意識を取り戻し始めました。

数日前から快方に向かい、亡くなる前日にはパッチリ目を開き孫娘たちの言葉に反応し、うなずいたり、まばたきをしたりして、何かものを言おうとして口を動かしておりました。

しょげていた父も元気を取り戻し「もうすぐ良くなる。」と嬉しそうでした。私たち家族も、もうすぐ良くなるものと安心しておりました。

４月13日未明、容態が急変し、お医者さんの懸命の心臓マッサージも虚しく、私たちの見守る中、心拍は止まってしまいました。大手術を何度も乗り越えた母の心臓は、もはや母を支えることが出来ませんでした。残念無念であります。

母の願いどおり桜の季節に穏やかな表情で永遠（とわ）の眠りにつきました。それぞれの心に大きなおみやげを残して旅立ちました。

今後とも変わらぬお付き合いをお願いします。ありがとうございました。